

番号	基本目標	29年度 戦略計画の評価
1	若者が帰ってこられる産業をつくる	①「計画(戦略)は適正か」、「取組は的を射ているか」 【評価できる点】 ・地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成の取組みは評価できる。(竹村) ・概ね評価できる。(熊谷)
		【改善・修正が必要な点】 ・若者が帰ってこられる産業を作る、というが、果たして若者が帰ってこられる産業とは何か解った上で展開しているのかが疑問。何かを掴むことも必要では。(原) ・基本目標には「産業振興の知の拠点」整備、小戦略には「新たな産業振興の拠点」の形成と記述がある。単年度なら良いが、次年度も戦略として掲げるのであれば統一したほうが良い。(福澤克) ・「産業振興と人材育成の拠点」は、国・県、郡市民、地元住民の期待・関心がさらに高まることが予想される。とあるが、拠点施設の中身をどれだけの人達が理解しているのか？疑問である。(熊谷) ・地域産業に担い手確保については、農林業をはじめ商店などの担い手不足は改善されていない。(熊谷)
	若者が帰ってこられる産業をつくる	②「進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)は適正か」 【評価できる点】 ・地域内回帰と定着率について今回から分離している点。これによりUターンする学生の動向把握がしやすい。(原) ・KPIの就職者数は、前年度を下回っているものの、基準値と比べた確認指標は上回っているため概ね評価できる。(福澤克)
		【改善・修正が必要な点】 ・「高校卒業生の地元就職者数」「進学者のUターン就職者数」は母数がわからないと判断することができないため、母数および率を併記するほうが良い。(竹村) ・工業技術センター・EMC試験室利用件数が伸び悩んでいるが、要因分析と利用してもらうためのPR手法を再考したほうがよい。(竹村) ・市田柿の出荷量は総量で表記しないと推移がわからないが、そもそも若者が帰ってくる産業とどう結びつくのか不明。(原) ・起業の場合、「学卒者の地域内回帰・定着率」には成果が反映されにくい。ビジネスプランコンペやI-Portの事業成果を評価指標に加える。(岡田) ・経済自立度の考え方。(村松) ・生産量だけでなく、売上が必要ではないか。(熊谷)
	若者が帰ってこられる産業をつくる	③「取組は良かったか」 【評価できる点】 ・「I-Port」が順調に推移している点は評価できる。(竹村) ・若者の起業支援の仕組みは今後期待したい。(原) ・I-Portの立ち上げ(村松) ・森林管理認証を取得したことは、地域産業の高付加価値化につながる展開と評価できる。(福澤克) ・新事業創出支援協議会「I-Port」の創設による地域の起業力や事業展開力の向上につながる取り組みは評価できる。(福澤克) ・I-Portの創設。(熊谷)
		【改善・修正が必要な点】 ・果実酒特区の認定は受けたが未だ具体的な方向性が示されない。早急に「いつ」「だれが」「何を」「どう作り」「どのように販売するか」という具現化の素案を示す必要がある。(竹村) ・「I-Port」による支援体制は整えられたが、「I-Port」の情報を探し出すのに手間がかかるので、飯田市HPのトップページから情報入手できるよう改善したほうが良い。(竹村) ・ただし、役所は仕組みを作り運営は民間に望ましいのでは。(原) ・起業家育成。(村松) ・利用可能な空地、空家の情報を把握し、企業誘致に結びつける仕組みづくりに取り組む(産業センター内に設置するなど)。(湯澤) ・ターンの受け入れ策として空き家の活用を含む住宅政策を加える。(湯澤)
	若者が帰ってこられる産業をつくる	④「時代や状況変化に対応しているか」 【評価できる点】 ・「都市部の若者世代に対し、飯田で起業する気運を促していきたい」とする姿勢は今後の時代認識にマッチしていると考えられる。(岡田)
		【改善・修正が必要な点】 ・課題の中で「公的試験場を管理運営できる専門人材の確保が喫緊の課題」として挙げられているが、今後の方向性に具体的なことが示されていないので、「いつまでに」「だれが」「どのように人材確保するのか」を詰める必要がある。(竹村) ・経済自立度は状況変化に合致しているとは思われない。循環型経済でいうところの転換も考慮すべきか。(原) ・IOTやAIによる技術革新を認識しながら、どう対応していくかが示されていない。(熊谷) ・昨年提言にある、若者の志向調査などの取組がされていない。(熊谷) ・新たな高度試験装置他、拡張される産業センターの人材育成、マーケティングを含むマネジメント力強化への支援。(湯澤) ・MRJの開発状況など航空機産業の将来に対する冷静な分析、実態に合わせた戦略見直し。(湯澤)
	★【総合的な評価】 ・概ね「戦略」および「ねらい」とおり進められている。(竹村) ・回帰率が示すように成果が出てきているとは言えない。 ・一貫したキャリア教育を含む「大学生」、起業の気運を促したい「都市部の若者世代」とどう具体的に接点をつくっていくか、検討をされたい。(岡田) ・基本目標の設定は課題認識等概ね適正であるので、小戦略をさらに充実していくべきと考える。(村松) ・取組は概ね評価できるが、成果に表れていない。(熊谷) ・概ね良いが、幾つか改善・修正すべき点があり、見直されたい。(湯澤)	
提言	【「いいだ未来デザイン2028」次年度(H31)への提言】 別紙	